

平成29年度 国立大隅青少年自然の家教育事業 第32回 山から君へのメッセージ ～高隈連山が君を呼んでいる～

- 1 趣 旨 冬の高隈山登山を通して自然の厳しさを体感し、目標に向かって頑張りぬく力と協調性を培い、友情の輪を広げ、たくましく実践力のある青少年を育てる。
- 2 期 日 平成29年12月24日(日)～12月28日(木) 4泊5日
- 3 参加対象 小学校5年生～高校生(不登校など心に悩みをもつ児童・生徒を含む。)
- 4 募集定員 24人
- 5 参加者 24人(小学生12人 中学生9人 高校生3人)
- 6 指導者 南竹 成己 氏(鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟)
新戸 希美 氏(鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟)
今村 エミ 氏(鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟)
国立大隅青少年自然の家職員
ボランティア8人

7 日程(宿泊場所)

12月24日(日)	12月25日(月)	12月26日(火)	12月27日(水)	12月28日(木)
9:00受付	5:00 起床・朝食	6:00 起床・朝食	6:00 起床・朝食	6:00 起床・朝食
9:30出合いのつどい	テント撤収	テント撤収	テント撤収	清掃・片付け
10:00登山学習	6:30キャンプ場発	8:20垂桜登山口発	8:00妻岳分岐発	7:50キャンプ場発
11:30外注弁当	7:50垂桜集落口着	12:10大笠柄岳着	8:45妻岳着	8:50太陽の丘着
12:30本館出発	11:00旧猿ヶ城	14:30小笠柄岳着	9:10二子岳A着	9:10 本館着
14:00キャンプ場着	山小屋着	15:30スマン峠着	9:30二子岳B着	9:20到着式
14:30テント設営	14:00垂桜登山口着	16:00妻岳分岐着	10:40平岳着	9:30用具片付け
16:00野外炊飯	テント設営	テント設営	11:30横岳着	10:10入浴
20:00ミーティング	15:00野外炊飯	16:30野外炊飯	16:20キャンプ場着	10:40アンケート
21:00就寝	17:00ミーティング	19:00ミーティング	18:00 夕食	感想発表
	18:00就寝	20:00就寝	19:30 交流会・CF	11:00軽食
			21:30ミーティング	11:20別れのつどい
			22:00就寝	11:50解散

8 事業運営上の配慮

- (1) 昨年度の反省から、日程を3泊4日から4泊5日へ変更した。日程を増やすことで山での生活時間を増加させようと計画したが、前日・当日が雨だったため、参加者の安全を最優先に考え、1日目・2日目のルート変更を行った。
- (2) 1日目の登山学習の際に、参加者は、ルート変更をした理由、安全に登山するための心構えや登山の仕方を学んだ。登山をするためには、体調管理が重要であることを伝え、就寝時刻を早めに設定し、睡眠時間を十分に確保した。
- (3) 活動は、班を基本として行い、各班で自分に与えられた役割を果たすことで責任感を持たせ、班ごとにミーティングをすることで班の仲間と協力し、目標に向かって努力するようにした。また、班付きボランティア、指導者を意図的に配置して、個に応じた支援ができるようにした。

9 事業の実際

- (1) 1日目の午前中は、登山に関する知識や健康管理、ザックのパッキングや装備の確認を行った。南竹隊長の指導のもとパワーポイントなどを使い、山の魅力を伝える時間も確保した。昼食後にキャンプ場までという短い距離ではあったが、カッパを着衣しての歩きを体験できた。実際の登山へ向けて、重い荷物を背負って、歩くことの大変さを少しでも体験できたのは2日目以降の活動のことを考えると大変良かった。
また、1日目から可能な限り、山中での生活を経験させる必要性を感じたため、実際にテント設営を行い、必要な道具を使って、野外炊飯を行った。知り合ったばかりのメンバーで最初はぎこちなかったが、班内で様々なことを話し合っていく内にどんどん打ち解けてきた。テントや食事だけでなく、今後のことを考えて、トイレ等も実際に野営トイレを使わせるようにした。



- (2) 2日目の予定は刀剣山ルートであったが、バスで垂桜集落口まで行き、そこから猿ヶ城第1・2山小屋、垂桜登山口のルートに変更した。初めは舗装道路を進み、今回登山する山々の景色を見ることができ、登山する決意を高めることができた。集落から山中に入ると前半は下りが続き、川沿いを歩く際は、猿ヶ城溪谷の美しい景色を見ながらの登山となった。猿ヶ城山小屋付近で休憩を取り、垂桜登山口へ向けて出発した。ここからは、予定していたルートで長い登りが続いた。ロープを持ちながら、横に渡る場所もあったが、スタッフやボランティア、班の仲間が声を掛けることで、全員が垂桜登山口まで到着することができた。
- 予定より早く到着したため、到着と同時にテント設営を行った。前日に経験していたので、てきぱきと自分たちで設営することができた。次の日の本格的な登山へ向けて、健康管理のため早めに就寝させた。



- (3) 3日目は、垂桜登山口から大笹柄岳、小笹柄岳へ登山し、スマン峠を経由して妻岳分岐を目指した。3日目に本格的な登山となり、ザックの重さが負担となったのか各班の歩くスピードに差が出てきた。
- しかし、誰一人脱落することなく大笹柄岳、小笹柄岳を登り切った。特に大笹柄岳に登頂するまでは、途中風も強く、樹氷ができるほど気温も低くなった。山頂では、周囲の山々が白く染まっている幻想的な景色と1つの山を登り切った達成感を味わったようで、多くの参加者がすがすがしい表情を見せていた。妻岳分岐では、テントの中で仲間と楽しく友情を深めている様子だった。



- (4) 4日目は、いよいよ妻岳、二子岳、平岳、横岳の縦走だった。途中の斜面にあるつららと足元にある霜柱に感動しながら、冬山登山を経験できた。妻岳の急な斜面は声をかけながら登り切り、下りの斜面ではロープを上手に持ち、安全に降りることができた。縦走の途中で自分たちが登ってきた山々を見て、自らのがんばりを改めて感じていた。その後、横岳に登頂し、友達同士ががんばりを認め合う姿が見られた。後半は急な下り坂が続いて、足への負担が大きくなっていった。けが人も出たが、スタッフや指導者、職員と連携を取り、全員が無事下山することができた。夜は、キャンプファイヤーを行い、交流を深め、楽しい思い出の一時を過ごすことができた。参加者一人一人が感想を述べ、今回の登山を通しての自分の成長を感じていた。



- (5) 5日目は、キャンプ場から本館までを歩き、ルート変更はあったが、全行程を終了できた。全員が無事に高隈連山を踏破し、ゴールすることができた。長い道のりを自分の足で歩き、ゴールした瞬間に感動して涙する参加者もいた。そして、全員が笑顔いっぱいだった。班を代表して班長が感想を述べたが、多くの班長が仲間への感謝の気持ちを述べていた。また、自分自身が強く変わることができたとも述べていた。



10 成果

- 昨年度の反省をもとに考えたルートだった。実地踏査を何度も繰り返し行うことで、整備はもちろん、ロープを新たに張り直すなど安全確認を徹底することができた。
- ルート変更を行う際の天候基準を事前に決めていたおかげで、当日焦らずに判断することができた。担当者や指導者の連絡調整の重要性を感じた。
- 班付きボランティアを中心に話し合いの時間を多く持ち、信頼関係を築くように計画した。そのかいあってか、ボランティアのリーダー性も高まり、それぞれの班で助け合う姿が見られた。
- 重い荷物を背負ったり、つらい登り坂を登ったりすることで弱い自分と向き合い、前を向いて取り組もうという意識の向上が活動途中から多々見られた。

